

## 2022 北海道レフェリーアカデミー第2回(通算12回) 事業報告

報告: 山口麗弥(札幌)

【日時】2022年5月14日(土)、15日(日)

【場所】オンライン(ZOOM)、東雁来公園東サッカー場、札幌ドーム人工芝

【参加者】審判員: 岡聖人(14日のみ)、濱岡優太(オンラインのみ)、一瀬哲平、山口麗弥  
インストラクター: 古曾部統太郎氏(RAM)、今川一輔氏、岡田渉氏(RAI)  
オブザーバー: 山崎裕彦氏(RDO)

### 【研修内容】

テーマ: 「判定力の一貫性と向上」

#### 5月14日

11:15 集合 @オンライン(ZOOM)

12:00 フィジカル講義「暑熱対策」

近年は北海道においても、気温が上昇している。そこでレフェリーとして、体を暑くなる前から順応させ、暑さに対して Positive になり、良いコンディションで試合に臨み、最大限のパフォーマンスを発揮することが求められる。そして、体が暑さに慣れることを「暑熱順化」という。その効果としては、安静時深部体温・心拍数の低下や発汗量の増加、汗によって失う電解質の低下などがある。「暑熱順化」の取り組み方として、暑熱下でのトレーニングや入浴、サウナなどで汗をかくトレーニングが挙げられる。



13:00 移動・昼食 @東雁来公園東サッカー場

16:00 試合実践①

2022年度 第41回北海道学生サッカーリーグ 1部 第1節

星槎道都大学サッカー部 - 北海道大学体育会サッカー部

主審: 山口麗弥 副審1: 岡聖人 担当INS: 今川一輔 INS



### 〈自己分析〉

ファウルをよくする選手に対して、特にこれと言ったマネジメントを行っていなかったもので、ファウルを減らす・抑制する目的のためにもレフェリーとして働きかけを行いたいところだった。それに加えて、よくファウルされる選手に対しても、その選手はフラストレーションが溜まっているように感じたので、何らかの働きかけを行いたいところだった。

### 〈INSアドバイス〉

なぜ競技者はストレスが溜まるのかを考えて下さい。ファウルを多く受ける競技者はおそらくそのチームのキーマンの1人であるので、まずはしっかりとファウルをとること。その上で、ファウルを行う競技者にはしっかりと注意等行う。経験談からですが、ファウルを多く受ける競技者に言葉掛けを行うとすれば、『ファウルを多く受けていると思いますが、レフェリーとしてしっかりと対応して行きますので安心してプレーに集中して下さい。』など伝えることでストレスを解消していました。言葉は山口さんなりに考えてみて下さい。

18:30 試合振り返り

19:00 諸連絡・解散

5月15日

08:30 集合 @札幌ドーム人工芝

10:00 試合実践②

2022年度 第41回北海道学生サッカーリーグ 2部 第1節

北海道科学大学サッカー部 - 札幌医科大学サッカー部

主審:山口麗弥 担当 INS:岡田渉 INS



〈自己分析〉

全体的に見れば、良い位置にいて監視することができていたのではないかと思います。前半にあったクロスボールに対するバリアの不自然に大きくなっている腕を見ることができたのも深い位置までポジションをとっていたことによるものと思う。一方、科学大の得点シーンでは動き出しが遅れており、争点から離されてしまっている。キーパーが飛び出して1対1の状況であり、DOGSOも十分に可能性としてあるシーンなので、改善したい。攻守の切り替え(トランジション)が鈍かったように感じる。

〈INS アドバイス〉

前半30分のハンドリング、後半44分の警告と適切なポジションをとっていたからこそ、適切に判断・判定ができたと感じました。反面、本人の分析通りトランジションからのクイック動作やショートアジリティは精度を上げていく必要があると感じました。

12:15 試合実践③

2022年度 第41回北海道学生サッカーリーグ 2部 第1節

北海道大学医学部サッカー部 - 北海道教育大学札幌校サッカー部

主審:一瀬哲平 担当 INS:今川一輔 INS



〈自己分析〉

試合前に目標として掲げた下がるたない動きというのを頭に入れポジションをとってみたが、巻き込まれるシーンも多々あり、チャレンジはできたが失敗に終わってしまった。縦に抜けるだけでなく、幅を持たせてスペースを生み出す動きなどが今後大事になるのではないだろうか。一生懸命すべての事象に対して動くことは、選手のパスコースを邪魔してしまうなどのリスクを負うことにもつながる。パワフルに動くことは自身の特徴ではあるが、選手のプレーを適切に監視するためにも予測をしていかなければならないので、正しく競技規則を適用するためにも情報収集力の向上に努め、動きやポジションに反映していきたい。

〈INS アドバイス〉

魅力の一つであるスプリントは評価できます。センターサークル付近やバイタルエリア付近でのポジショニングに若干の課題が残る。もう少しステップワーク(バック、サイド)を用いて幅を持たせると巻き込まれるリスクが減少するでしょう。

14:30 試合振り返り

15:00 諸連絡・解散

